

k i m o c h i - n o - s h i r u s h i

きもちのしるし

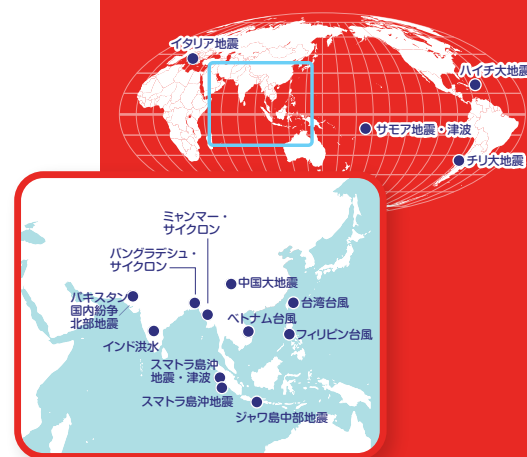
日本赤十字社 海外救援・復興支援活動報告

2010. March



国境も、 民族も、 宗教も超えて。

赤十字は皆様の支援のもと、
災害で苦しむ世界中の人々の救援・復興支援活動を行っています。



海外の救援・復興支援活動

みなさまのきもち

赤十字は、
みなさまの「きもち」を
被災地につなぎます。



©IFRC

つながるきもち

みなさまからの救援金は、
災害や紛争の地で大切に
役立てられています。



被災地の人々のきもち

世界中から
「ありがとう」のメッセージが
届いています。



日本赤十字社は、多くの皆様から
預かりした救援金を役立てるため、
しっかりした事業計画により支援を
進めると同時に、救援金をお寄せい
ただいた方々に使途をご報告するた
め、この冊子を刊行いたします。

- 03 ●チリ大地震
- ハイチ大地震
- 04 ●スマトラ島沖地震
- サモア地震・津波
- フィリピン台風
- 05 ●ベトナム台風
- インド洪水
- 06 ●パキスタン国内紛争
- 台湾台風
- イタリア地震
- 07 ●スマトラ島沖地震・津波
- パキスタン北部地震
- 10 ●ジャワ島中部地震
- バングラデシュ・サイクロン
- 11 ●ミャンマー・サイクロン
- 12 ●中国大地震

トピックス

- 13 活動資金へのご協力のお願い

チリ大地震

被災地の医療支援に向けて

2010年2月27日、南米チリ共和国でマグニチュード 8.8 の大地震が発生しました。

被害は、死者 530 人、被災者約 200 万人。家屋損壊 50 万戸にのぼりました。

日本赤十字社は被災状況調査のため、直ちに職員を現地に派遣しました。

現地では病院や診療所が壊れており、医療支援を行うため基礎保健 ERU（緊急対応ユニット）を派遣しました。

今後もみなさまからいただいた救済金を有効に活用し、現地の人々が必要とする支援を行っていきます。



©IFRC

ハイチ大地震

求められる継続的な支援

2010年1月12日、カリブ海地域のハイチ（人口 1,000 万人）でマグニチュード 7.0 の大地震が発生しました。犠牲者数は南北アメリカ史上最悪となる約 22 万人に上りました。

日本赤十字社は基礎保健 ERU（緊急対応ユニット）を派遣し、被災者の治療や予防接種を行っています。4 月から始まる雨期に備えて急務となっている仮設の家屋への支援を行っています。

ハイチは西半球で最も貧しい国といわれています。地震により壊滅的な被害を受けた人々に対する長期的な支援を行っていきます。



※緊急対応ユニット(ERU)について

緊急対応ユニット (Emergency Response Unit : ERU) は、緊急事態や大規模災害発生時に必要とされるサービス提供のために各国赤十字・赤新月社が整備している訓練された専門家チーム及び資機材の総称です。

スマトラ島沖地震

被災地のニーズに対応した復興支援へ

2009年9月30日及び翌10月1日、インドネシアのスマトラ島西部沖でそれぞれマグニチュード 7.6、6.8 と推定される強い地震が続けて発生しました。この影響で、建物の崩壊や火災、土砂崩れ等が発生し、死者 1,110 人以上、行方不明者 240 人以上、被災者約 78 万人に上る被害が発生しました。日本赤十字社は、職員 4 名を被災地のパダンへ派遣し、現地の被害状況の確認やインドネシア赤十字社の医療チームに合流し医療活動を行いました。また、テント、蚊帳、ビニールシート、毛布、飲料水用タンク、シェルターキットを提供するとともに 1,000 万円の資金援助を行いました。

今後は被災者のニーズに対応した復興支援を行っていきます。



サモア地震・津波

被災地で活躍する赤十字ボランティア



©IFRC

2009年9月29日、サモア諸島沖で発生したマグニチュード 8.3 と推定される地震により周辺の国々に津波被害が発生し、被害はサモア独立国、トンガ王国、アメリカ領サモアで死者 140 人以上、被災者数 1 万 5,000 人に上りました。サモア独立国では、発災直後から、赤十字ボランティアが被災状況やニーズの調査、ビニールシート・毛布・飲料水等の救援物資の配付活動を実施。日本赤十字社は、これらの活動を支援するため資金援助を行いました。

2010年2月からは、復興支援を担当する駐在員 1 名を派遣しています。

フィリピン台風

住環境の改善を目指して

2009年9月26日にフィリピンに上陸した台風 16 号により、首都マニラは 40 年来の記録的豪雨による大洪水に見舞われ、死者 530 人以上、行方不明者 80 人以上、被災者 420 万人以上、被害家屋 9,200 棟に上る甚大な被害を受けました。日本赤十字社からは、看護師 2 名がフィリピン赤十字社の医療班に合流し、マニラ近郊の避難所において診療や被災者の衛生指導に当たりました。また、衛生セット 1,000 セット・毛布 1 万枚及び 1,200 万円の資金による支援を行いました。11 月からは仮設住宅の支援を担当する駐在員 1 名を派遣しています。



2009 年は地震や洪水といった自然災害、地域紛争のような人為災害が世界各地で発生しました。

日本赤十字社は赤十字ネットワークを通じて、被災者たちへの支援を行ってきました。

みなさまからいただいた救援金はこれらの災害・紛争で苦しむ人々の支援にも活用させていただきました。

ご支援ありがとうございました。

ベトナム台風



©IFRC

2009 年 9 月 26 日にフィリピンに上陸した台風 16 号は、その後ベトナムに向かい、死者 160 人以上、被災者 300 万人に上る甚大な被害をもたらしました。

日本赤十字社は、食料や生活用品等の救援物資の配付、家屋復旧、生活再建、飲料水の提供、下水システム補修などの活動を支援するため、1,400 万円の資金援助を行いました。

インド洪水

インドでは 2009 年 9 月 29 日以降続いた記録的な豪雨の影響により、同国南部のカルナタカ州とアンドラ・プラデシュ州で大規模な洪水が発生、死者 350 人、被災者 410 万人に上るなど、過去 100 年で最悪と言われる被害が発生しました。

インド赤十字社は、備蓄しておいた支援物資を被災地へ緊急輸送したほか、浄水設備 (5,000 リットル/時を処理) の配備と衛生状況の悪化が懸念される避難所での衛生教育を行っています。みなさまからいただいた救援金はこれらの活動への支援に活用させていただきました。



©Rob Few (IFRC)

パキスタン国内紛争

パキスタンでは、2009 年 5 月以降、パキスタン政府軍と対抗勢力の戦闘が激化し、登録が確認された国内避難民が 190 万人以上に上りました。

赤十字国際委員会 (ICRC) とパキスタン赤新月社は、食料と飲料水や救援物資の配付、仮設住宅やトイレ

の設置、医療活動などを実施しています。日本赤十字社は上記の活動を支援するために 4,000 万円の資金援助を行いました。また医療活動支援のため、ICRC ペシャワール病院に赤十字病院の看護師を派遣しています。



©ICRC

台湾台風



©台湾紅十字会

2009 年 8 月 7 日に台湾に上陸した台風は、台湾の東部・中部・南部各地において、洪水や地滑りを引き起こし、死者 770 人が発生する等の甚大な被害をもたらしました。台湾の赤十字社である台湾紅十字会は、ボランティアを動員

し、食料及び寝袋、毛布、布団、衛生キット等の救援物資の配付、地域当局との連携による被災者の救護活動を展開しました。また、復興支援としては主に住宅の建設を進めていくこととしており、最大 3,400 戸の仮設住宅及び恒久住宅の建設を目指しています。みなさまからいただいた救援金は台湾紅十字会の活動への支援に活用させていただきました。

イタリア地震

2009 年 4 月 6 日、イタリア中部アブルツォ州ラクイラでマグニチュード 6.3 の地震が発生し、死者 290 人、負傷者 1,000 人、48,000 人が家屋を失うなど、大きな被害をもたらしました。

イタリア赤十字社は、発災後、食料その他の救援物資の配付や心のケア支援などの被災者救援活動を行いました。みなさまからいただいた救援金はイタリア赤十字社の活動への支援に活用させていただきました。



©Italian Red Cross

スマトラ島沖 地震・津波災害復興支援活動報告



明日を信じて 被災者とともに復興に取り組んだ5年間

マグニチュード9.0の巨大な地震と10メートルを超える津波が人々のいのちや生活を一瞬のうちに打ち砕き、のみ込んだ、2004年12月26日のスマトラ島沖地震・津波災害。死者・行方不明者22万人、被災者200万人を超える過去最大規模の被害をもたらしました。日本赤十字社は発災直後から緊急医療チームを震源近くのインドネシア・アチェ州に派遣し、被災者に対する医療活動を行うとともに、支援が十分に行き届かなかった周辺の村々への巡回診療を展開。医療を求める切実な声に応え、4ヶ月間にわたって延べ1万人以上の治療にあたりました。



マングローブ115万本の植林と7村で地域防災グループの結成をしました



2,214戸の住宅を
再建しました



生計向上のために
164人に職業訓練
コースを実施しました



被災地の看護学校
4校に災害看護教育
を導入しました



(平成22年3月末現在)

その後、日本赤十字社は緊急救援から今日の復興支援まで切れ目なくインドネシア・スリランカなどの被災地の支援を実施しています。いのちを救い、生活を立て直し、将来の災害に備える手助けをする。その決意のもと、これまでに被災者が安心して暮らせる新たな住宅2,214戸をはじめ、地震や津波で被災した病院や診療所など32施設の再建を行いました。

また、現地の社会や文化・風習にも配慮しながら、職業訓練を通じた生計向上、50村での保健衛生知識の普及、水道のない僻地で安全な水の供給が行われたほか、日本赤十字社のノウハウを活用して、被災地の看護学校4校での災害看護教育の導入や海岸でのパト



飲料用井戸6基と
生活用水井戸210基を設置しました

スマトラ島沖 地震・津波災害 復興支援活動報告

ロールや救助活動にあたるライフセーバー約350人の育成が行われました。さらに被災地の将来を見据えて、沿岸部で地域住民の手によるマングローブ115万本の植林や若い防災ボランティアの訓練、被災児童への文具セット30万6,000組の提供と日本の青少年赤十字メンバーとの15,130通に及ぶカードを通じた交流にいたるまで、物資（ハード）の提供だけでなく、知識や技術（ソフト）が地域住民やコミュニティに根付くよう、人と人のつながりを大切にしたり取り組みを幅広く行ってきました。このように、多くの方々からのご支援により実施した日本赤十字社の5年にわたる取り組みで、被災地の人々を救い、生活を立て直すとともに、さらなる発展を遂げるための基盤の強化に寄与することができました。日本赤十字社は、今後も地元赤十字社や赤十字ボランティアを通して、被災地の人々を見守ってまいります。



被災児童に30万6,000組の文具セットを提供しました



海の安全を守る
ライフセーバー約350人を養成しました



167村で眼科巡回診療を行い、
1,613人の白内障を治療しました

ありがとう message

津波前には姉とパンを一日400個ほど作っていました。津波で姉を失い、作る気を失っていましたが、日赤の料理研修に参加して3ヶ月経った頃、もう一度姉と作ったパンを作ってみようと思えました。今では、パンだけでなく研修で学んだお菓子を作って売った収入で、食材を買ったり電気料金を支払えるようになりました。夫もびっくりにしていました。この研修を通して私は自信を取り戻すことができました。それが一番大切なことでした。



インドネシア・ダヤバロ村
リナさん

メッセージ message ありがとう

3年前は泳げなかった人も、日赤の水上安全法支援を受け、講習で救助の技術を教える指導員となるまで成長しました。そして、指導員が伝えた技術は受講者へと引き継がれ、事故が起きたときにその力を発揮しています。日本のみなさんの支援のおかげで、この事業で育成されたボランティアによって、これまでに180名の命を救うことができました。ご支援いただき本当にありがとうございました。



スリランカ赤十字社ガンパハ県支部職員 ラジーフさん(写真では一番左)

パキスタン北部地震復興支援報告

被災者の生活基盤を整えて

2005年10月8日。約7万3,000人もの尊い命を奪ったパキスタン北部地震の発生から、4年が経過しました。パキスタン国内の治安状況の悪化により、一時は復興支援の遅れが懸念されましたが、日本赤十字社が支援している給水衛生事業、小規模インフラ再建事業、農業研修など人々の自立に向けた活動は無事に終えることが出来ました。引き続き、中学校や職業訓練施設を支援することで、学びの場や技術を取得する場の提供を行っていきます。

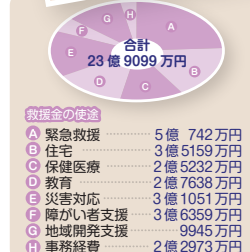


(平成22年3月末現在)

ジャワ島中部地震復興支援報告

被災地に広がる支援の輪

2006年5月27日に発生したジャワ島中部地震の被災者に対して、日本赤十字社は緊急から復興までの支援を切れ目なく行ってきました。被災建物の再建支援等を行った後は、水不足が深刻な貧困地域に雨水貯水槽を設置したり、身障者が自活するための支援を行ってきました。また、3年あまりかけて行ってきた復興支援の成果を図るべく、第三者による事業評価も実施し、すべての事業が終了しました。ご支援ありがとうございました。

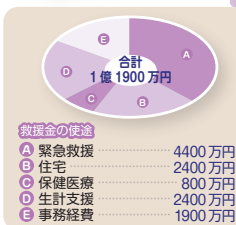


(平成22年3月末現在)

バングラデシュ・サイクロン復興支援報告

災害に強い地域づくりを目指して

2007年11月15日に強大なサイクロンに襲われたバングラデシュ。海岸部では住宅や家畜、農作物に大きな被害をもたらしました。日本赤十字社は、緊急救援活動の後、住居や生活を再建するための支援を行うとともに、災害に強い地域づくりを目指し、基礎的な保健知識や救急法を普及させていくための活動を行ってきました。赤十字のトレーニングを受けたボランティアたちが、自分たちの住む村に戻って活動することによって、村人たちに保健知識が広がっていききました。2年間に亘る事業が終了しました。ご支援ありがとうございました。



(平成22年3月末現在)

ミャンマー・サイクロン復興支援報告



©Myanmar Red Cross

学校の井戸を確認する日赤駐在員と村の学校建設委員会メンバー
(ディティエ地区)

地域の活力を取り戻すため、復興支援事業を続けています

2008年5月2日夜から3日未明にかけてミャンマー南部を襲った大型サイクロン「ナルギス」は、死者・行方不明者あわせて14万人という甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社は、約4億5,000万円の救援物資を支援し、ミャンマー赤十字社ボランティアの手により被災者に届けられました。

2008年11月からは復興支援が本格化し、10万世帯を対象に生計再建、住宅建設、保健・衛生普及、学校再建等さまざまな分野で支援活動を実施。生計再建の元手を得るための雇用機会の提供、農業従事者対象の肥料配付などのほか、住宅やコミュニティ施設などの建設も進んでいます。また学校再建事業では、被災地の災害特性を考えて、「防災強化型」の学校を建設中です。子どもたちに快適な学習の場を提供するとともに、地域の人々にも緊急時の避難場所を提供していきます。

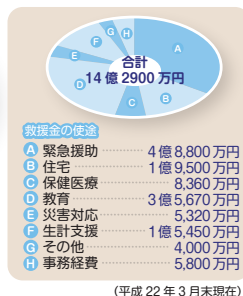
ありがとう message

サイクロンで自宅が倒壊してしまいましたが、私たちの村では、赤十字が住宅建設を実施しています。その対象者に自分の名前があることを知ったときは、嬉しくて泣いてしまいました。

今は、新しく安全な住宅で、4歳の孫と二人で心地よく生活しています。



ドゥ・ティン・ブウさん(70歳女性)
©IFRC



中国大地震復興支援報告



©IFRC

再建した家の前で、楊夫妻
(四川省徳陽市綿竹)

被災者に届いた住宅再建支援金 新しい学校・病院も続々と完成へ

2008年5月12日に中国四川省で発生した大地震。8万7,000名以上が犠牲になったこの地震の被災者に対し、地震直後にはテントや食糧等の救援物資を、また冬には布団や防寒服を届けてきました。

あれから2年、地震で家を失った被災者の多くは貯金と政府の補助金では足りず、ローンを抱えて住宅を再建し、各地で既に完成しています。赤十字は被災者の住宅再建経費の一部を現金支給する形で支援しており、日本赤十字社は四川省の激震地の被災者約1万6,500世帯を支援しました。

この他、被災した学校26校、病院39ヶ所とクリニック54ヶ所の再建も支援しています。これらは2009年後半から次々と完成し始め、明るい新校舎に笑顔がこぼれています。再建施設は2010年内には全て完成する予定です。

ありがとう message

震災で家が崩壊し、再建のために銀行から大きな借金をするようになりました。私達農民の現金収入は少なく、返済が心配で仕方なかったが、赤十字の支援金のおかげである程度返済の目処が立ちました。日本の皆さん、本当にありがとう。



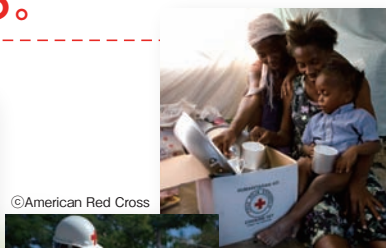
とくようし めんちく おうでんらく
四川省徳陽市綿竹 王天福さん



苦しんでいる人を救いたい。
その気持ちが、私たちをつないでいる。
赤十字を支えている。



©American Red Cross



©American Red Cross



©American Red Cross



©IFRC



©IFRC



©American Red Cross

赤十字は、150年前に戦時下において敵味方の区別なく、
負傷者を救うというアンリー・デュナンの理念から生まれた、
世界最大規模の救護団体です。
現在では、186の国と地域で活動を展開しております。



活動資金へのご協力をお願いいたします。

人を救うために、一人ひとりが行動を起こす。
その理念は、ずっと変わらない。

日本赤十字社は

「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」

という7原則のもと、病院運営や献血などの医療事業をはじめ、
国内の災害時の救護、学校教育における国際人道法の普及など、
幅広い活動を行っています。

赤十字社員(会員)としてご支援いただく方法

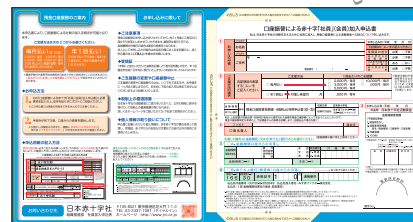
電話によるお申し込み **☎ 0570-009595**

預金口座振替によるお申し込み

日本赤十字社ホームページから申込書をダウンロードできます。

社員に参加したい

検索



※口座振替により、ご支援いただく場合には、ご支援金額を
1回2,000円以上でお願いしております。



その他のご支援方法の詳細は

日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp>

k i m o c h i - n o - s h i r u s h i

日本赤十字社
の
使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

Our world. Your move.

赤十字150年

〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL.03-3437-7081 (ダイヤルイン)
【組織推進部 社員加入申込係】

ホームページ

日本赤十字社

検索

